

平成29年度 第1回小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成29年7月3日（月）10時00分から11時50分まで

場所：小平市健康福祉事務センター 第3・第4会議室

2 出席者

(1) 委員

14名（関委員長、神保副委員長、井上委員、上原委員、久保田委員、小山委員、竹内委員、田中委員、長島委員、西田委員、信山委員、藤原委員、多田委員、松原委員）

(2) 市側出席者

齊藤企画政策部長、企画政策部安部政策課長、同横山課長補佐、同山内担当係長、地域振興部板谷産業振興課長、同増原課長補佐、子ども家庭部小島子育て支援課長、同市川保育課長、健康福祉部永井健康推進課長。

(3) 関係者

一般社団法人すだち 金子氏。

(4) 傍聴者

2名

3 配布資料

資料1 地方創生加速化交付金・推進交付金を活用した平成28年度実施事業の概要等

資料2 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況一覧表

資料3 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・KPI進捗状況

資料4 出合いの創出事業について

4 内容(議事要旨)

(1) 委員自己紹介

委員交代により新規参加の委員もいるため、それぞれ自己紹介を行った。

(2) 副委員長の選出

従前の副委員長が退任したので、今回改めて副委員長の選出を行い、神保委員が選出された。

(3) 議題1 地方創生に係る交付金を活用した平成28年度実施事業について

資料1を用いて事務局より、地方創生に係る交付金を活用した平成28年度実施事業について説明をした。その後、現在事業を担っている「一般社団法人すだち」の金子氏より、テレワークを中心とした事業の内容と状況について説明をした。

(委員) この会は、珍しいほど女性が多い。テレワーク等に関心のある方も多いのではと思うが、いかがか。

(委員) 自分の周りでも、すだちの取組について話すに関心を示す人は多い。夜なら時間があるという人も多いと思うし、自分もそうなので、自分自身でも考えてみたい。

(委員) すだちの事業は、女性の起業についてしっかりと取り組んでいる。地方都市ではそのような事例も見かけるが、この東京郊外地域で、行政もしっかり入った形で展開しているのは珍しいと言える。

今後、拠点の増設等の展開をどうしていくかが気になる所。私自身もすだちの中でワンデーキッチンやワンデーサロンに取り組んでいる方の話を聞き、住んでいる場所の近くで起業したいという人が沢山いるということを感じている。

(資料1の) 創業支援について、「非常に効果があった」という評価はそこまで言えるかなという気はする。小平市は後発であり、中央線沿

線より遅れている面ある。まだスタートしたところであり、これからが重要となる。

(委員) いくつか重要な点をお話いただいた。すだちについて、市内には駅が沢山あり、核となる場所が1箇所ではないので、3か所くらいに横展開するのも良いのではと思う。

創業支援は、中央線沿線と比較すると確かに後発。創業は、常に背中を押していく継続性と、あとは近隣市との連携もあると良いのでは。地域未来投資促進法の活用も今後考えられる。

ご自身も創業者である委員はどう考えるか。

(委員) 創業は、まず本人の覚悟が必要。後押しに甘えると、逆に続かなくなることも考えられる。創業して5年で8割が脱落していることからすると、5年後に生き残っていることが重要。融資等をするにしても、5年後に回収する目途をもつのなら、大賛成。

(委員) 商工会は、今日の前で助けを求めている事業者の人に手を貸すという側面がある。いかに小平市で創業してもらおうかということが、1つの重要なポイントと考えている。

(委員) 雇用が地元に行えることは、確かに重要。

(委員) 資料3を見ると、事業が課ごとに分けてあるが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、そのような縦割りの現状に対して横串を刺していくことが重要と考える。例えば、ママの起業と、市の予算を使うイベントや、あるいは福祉分野の取組等をつなげていければ、小さな起業をするママ達に安定的な取組を提供できて、継続性が期待できるのではないか。もっとも、本気の起業をする方だと、また話も違ってくるので、そこを分けて考えていくのも良いのではないか。

西東京市では、創業のプラットフォームをつくっているが、場所をつくって、そこを皆で共有出来れば、面白いコラボも出来るのでは。中央線沿いは条件が良いので放っておいても創業者が集まりやすいが、小平では、イベントにただ乗れできるとか、そういうお得なことがあったりすると、負担少なく参加出来て良いように思う。

(委員) 確かに、「産業」と堅く考えるのではなく、福祉や農業、子育て等と連携した「小さな経済」を回していくという考えは、良いと思う。地域にどのような選択肢があるのか、子育て応援サイト「こだち」等で情報発信もしていけると良いのでは。

あと、KPIの人数も重要だが、場所自体があるということも重要。ここで、すだちという場所が1つ出来たので、その効果を検証し、投資価値を検討のうえ、広げていけると良い。他の方はどうか。

(委員) 私もすだちのセミナー等で携わらせていただいたが、保育がついているからセミナー等に参加できるという方も多くいた。

今すぐどうこうではなくても、社会とのつながりを持ちたいと考えている人も多くいるので、すだちの取組について、こだち等でより情報発信をしていけると良いと思う。

(委員) 私はいわゆる団塊の世代だが、この世代の居場所問題については、各自治体で検討の途上にあるように聞いている。我々自身からもアイデアを出していくことも必要と考える。

創業支援については、青梅市では、空き店舗を実際に見て確認する取組を行い、掘り起こしての活用が進んだとか。オーナーによっては、それほど積極的に空き店舗解消を目指していない場合もあり、探せば良い物件が眠っていることもあるかと思う。良い物件がある、という

ところから起業につながるという流れも有り得るのでは。青梅市の例だと、個人商店の後継者不足という問題もあるとのことだったので、そのような点も併せて、起業を希望する人とつなげていけると良いのでは。

(委員) 青梅市は、まちづくり会社をつくり、中心市街地の活性化にも取り組んでいたかと思う。良い事例を紹介してくださり、感謝する。コワーキングスペースすだちが入っている店舗は、どのようにして探したのか。

(委員) 数年前に、マイスタイル（NPO）で空き店舗ツアーを開催した際に認識したのが最初。日頃から、空き店舗やそのオーナーさんの状況をリスト化しておけると何かの時に動きやすい。東京都と連携して、そのへんに関わることもしている状況にある。

(委員) 私は今、若いお母さんと関わる機会の多い仕事をしている。会社に籍を置いたまま一時期育休を取得して、また復帰するという方が多くいることを実感として感じており、それらの方は、遠くてもその会社で働き続けることが多いのだろうと思う。職場が遠いことを大変だという声は聞くが、テレワークという選択肢の周知は、まだまだでは。

(委員) ここまでの感想として、一橋学園の他にも、例えば花小金井などにもすだちのような拠点があると良いように感じた。青年会議所では、市内の団体「こだはぐ」と連携して「ママフェス」を開催するなどして子育て支援に取り組んでいる。今後も、多様な連携を図りながら、そのような取組が出来ればと考えている。

(委員) 地元で働くということについては、小平に仕事があるかどうか、まず重要になると考える。JAでも、子どもを預けて遠くから出勤して

いる職員もいる。都心と小平を比べると、やはり都心の方が仕事環境として有利な面が多いので、小平で仕事をすることの意義という面が、問題の本質になるのでは。

(委員) 重要な指摘と思う。もともと、小平を含めた周辺地域はベッドタウンとして発展した面がある。子育ての中で、勤めていた人達が辞めざるをえない場合もあり、その受け皿づくりが今始まっていると言える。

(委員) 昨年、すだちで実施した就労プロデューサー研修受講者のうち2名の方が、それまでの職を辞めて、地元で、子どものそばで仕事を始めようとしている。また、企業に所属している方が、出社は週1回で、残りの日のテレワークをする場としてコワーキングスペースすだちを希望して面接に来られた方もいた。新しい動きが出てきている。

(委員) 私も今年求人をしたが、採用した女性が保育園に落ちて、テレワークを中心に勤務してもらっている。時代が変わってきていることを感じる。

(委員) 幼稚園という立場から見ると、お母さん達の中には、自分の人生という面で孤独を感じている方も多いと感じる。スキルのある方も多いので、1人の人が何かを始めたら「私も」とつながっていく可能性もあるのでは。周知という点では、幼稚園でチラシ等を配布することも出来るので、まず知ってもらうところから始めていければと思う。

(4) 議題2 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況

資料2と資料3を用いて事務局より、小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策全体の進捗状況や、数値目標（KPI等）の進捗状況について説明をした。

(委員) 全体として、概ね順調な推移をしているということで理解した。

昨年度の取組として、都市農地に係る調査研究も行っているのですが、その点について少し補足したい。プロポーザル方式による選定を経て、私も関わる中で、調査研究報告書をまとめた。都市農地を保全するために、今後どのような手段が考えられるかということで、思い切った提案をさせてもらっている。農協が信託を受けて農地の存続を図るということも、1つの手法として考えた。

(委員) 生産緑地については、税制等を含め今後決まってくる部分もあり、農家さんもまだ動きにくい状況にある。農業と福祉の連携について、市内で取り組んでいる農家さんもおられるので、市が積極的に連携して、国の交付金等も受けながら進められると良いのでは。

(委員) 農福連携も重要な要素ではあるが、生産の場としての生産緑地をしっかり残していくことを第一に考えたいという面もある。JA東京むさしさんは、多摩でもナンバーワンの存在だと思うので、是非積極的に動いていただければと思う。

(委員) 農地保全については、制度的な問題が一番大きく、そこに変化がないと、根本的な解決は難しいように思われる。後継者等、2次的な問題もあるが。

(委員) うまく進んでいった場合、今後市内で新規就農者が出てくる可能性ということもあるのか。

(委員) 市内の農地は資産でもあるので、家族の中で代々継いでいくのが一般的であったが、今後、貸借等含め制度が変わっていけば、純粋な新規就農ということも可能性としてはある。

(委員) 西多摩の調整区域で新規就農した方の農地を視察に行ったことがあるが、経営的にはかなり厳しい状況で、簡単ではないということを感じ

た。

(委員) 農地法の制限もあり、新規就農者が小さく始めるということが難しい面もある。また、市内の都市農業についてみると、少量多品目で野菜中心の栽培であり、これは熟練したプロの方でも中々大変で、かつ、値段も安くなりがちであり、確かに簡単ではない面がある。

(委員) 都市農地についての話が続いたが、他については特にないか。無ければ、次の議題に移りたい。

(5) 出合いの創出事業について

資料4を用いて事務局より、平成28年度に実施した出合いの創出事業「ラララ・こだいラ」の実施内容や成果と課題等について説明を行い、今後の事業展開について、地域資源を活用した形での事業等、意見をいただきたい旨説明した。

(委員) これからここで意見交換した内容が、今後の事業展開に反映するとう理解で良いか。

(事務局) 来年度以降の予算を検討する際に、参考にさせていただく。

(委員) JA東京むさしでは「ハートフルむさし」という結婚支援事業を行っており、これまで約20組の成婚実績もある。事業に携わる中で、出合いの場の提供は出来ても、その先の展開については本人次第な面もあることから、難しさを感じている。

(委員) 商工会では、青年部主催でまちコンの「だいらコン」を開催しているが、女性枠の方が早く埋まっていく状況にある。「ラララ・こだいラ」では男性参加者の方が多かったと聞き、驚いている。

(委員) ダンスを通じての出合いということで、飲み会とはまた違った需要があったのかもしれない。市も、前例のない企画を頑張ってくれたと思

う。

(委員) マイスタイル(NPO)では、婚活を隠しテーマとした企画を現在考えている。現代の状況として、平均寿命が大きく延びたこと等によりロールモデルの無い時代を迎え、人生の大きな決断についてリスクを先延ばしする傾向がある。結婚もその代表例。「人生100年時代、ロールモデルは自分でつくる」というテーマで、連続的な企画を考えている。

社会活動等により、価値観を共有する場がある方が、ただ楽しい企画に参加するよりも、伴侶に出会う可能性が高まるのでは。

(委員) 今のお話、1つのヒントだと思う。色々な組織が、表向きは婚活ということではなく、婚活世代をターゲットとした企画を行い、市は財政的に支援をするというのも良いのでは。1件あたりの予算は小さくても可能と考えられる。

(委員) 私も同意見。出会いが前面に出たイベントで知り合って、仮に結婚したとすると、例えば親族に説明する際などに言いにくいということもあるかと思う。それが、共通の趣味等の活動を通じて知り合ったとなると、言いやすい。その後の展開を考えると、やはり人に言いやすいイベントの方が良いように思う。

(委員) JAやJC、社協等、多様な主体が中心となり、市はその支援に回る形で、地域全体で盛り上げていけると良いのでは、というのが結論的などころと言える。

(6) その他

次回の日程は、追って連絡することとする。

以上